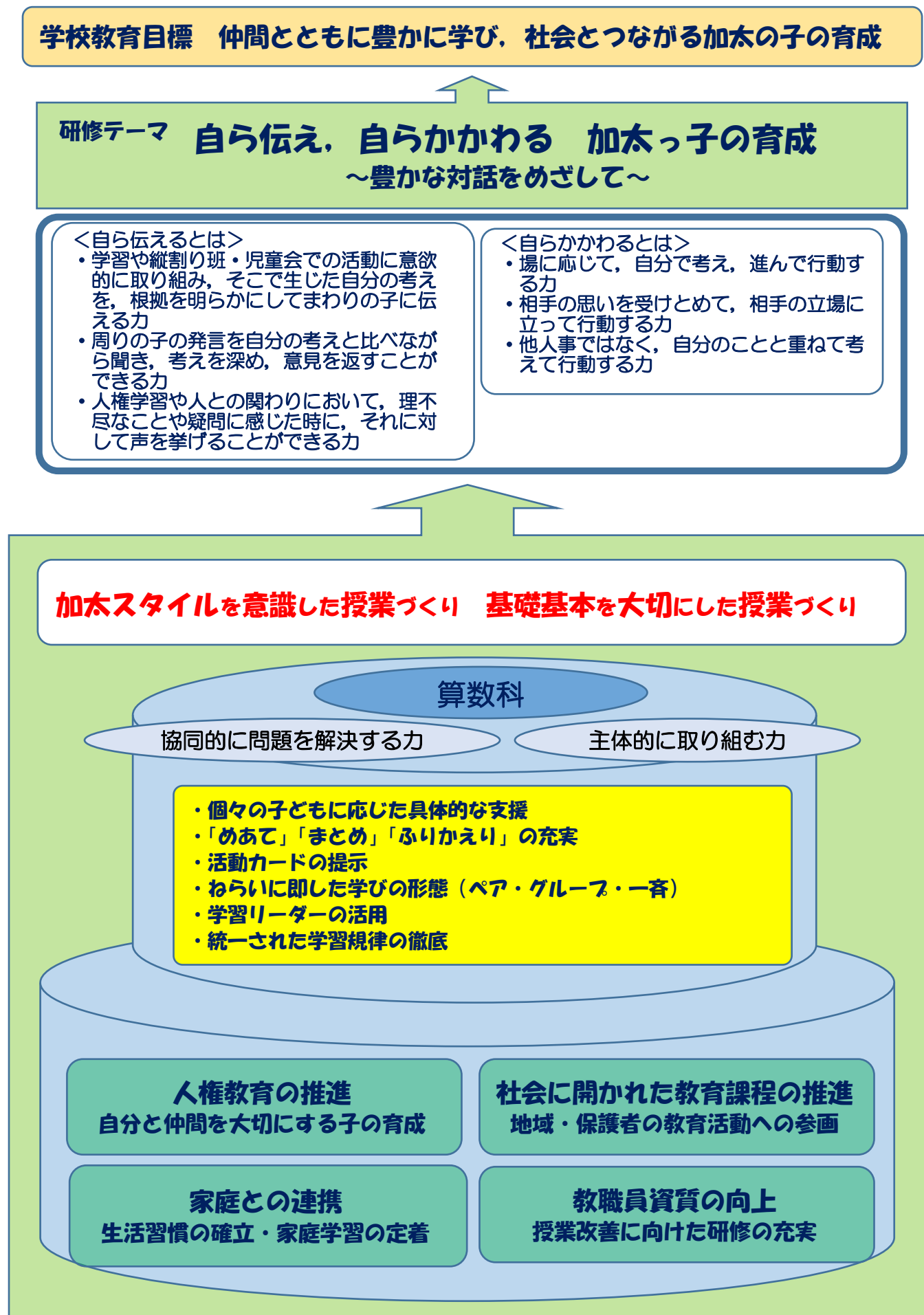


9. 研究構想図



研究デザイン

亀山市立加太小学校

1. 「亀山市教育大綱 基本方針―1」及び「亀山市教育関係職員の研修方針」

教育大綱 基本方針―1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

**「一人ひとりの児童・生徒が個性を生きながら
なかまとともに主体的に学ぶために」**

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

2. 学校教育目標

仲間とともに 豊かに学び 社会とつながる加太の子の育成

3. 関中学校区 研究主題

自他の尊厳と多様な価値観を認め、共に学び、主体的に行動する児童・生徒の育成

4. 研究主題

**自ら伝え、自らかかわる加太っ子の育成
～豊かな対話をめざして～**

5. 主題設定の理由

「自ら伝える力」「自らかかわる力」は、本校の子どもたちに必要不可欠な力ととらえ、研究テーマとして取り組んできた。授業では、ペアやグループで話し合いを深め、自然に教え合う姿が見られる。縦割り班活動においては、高学年の子どもたちが低学年の子どもたちに対して、分かりやすい説明や寄り添うような声掛けができていく。このように、授業や全校での活動の場面では、相手に分かるように話したり、友だちを気遣って声をかけたりする子どもたちの姿が見られるようになり、一定の成果が得られた。その一方で、様々な場面で受け身的な姿があり、与えられた役割を果たすことはできるものの、自ら進んで課題を見つけ、仲間と協力して課題を解決しようとする力は定着していない。また、みえスタディ・チェックや全国学力・学習状況調査等の結果から、論理的に考えたり、根拠を明らかにして説明したりする力が弱い傾向があることが明らかになっている。これらの課題を解決するために、本校ならではの少人数学習や合同授業、わたり授業、異学年集団での関わりといった特色を活かして、子どもたちが主体的に活動や学習に取り組める場面を意図的に設定する。研究領域である算数科においては、学習リーダーを活用した授業を展開し、「主体的・対話的・深い学び」にもつながる「自ら伝え、自らかかわる加太っ子の育成」をめざしていく。

6. 研究主題～つきたい力～について

《 自ら伝えるとは 》

- ・学習や縦割り班・児童会での活動に意欲的に取り組み,そこで生じた自分の考えを,根拠を明らかにしてまわりの子に伝える力
- ・まわりの子の発言を自分の考えと比べながら聞き,考えを深め,意見を返すことができる力
- ・人権学習や人との関わりにおいて,理不尽なことや疑問に感じたときに,それに対して声を挙げることができる力

《 自らかかわるとは 》

- ・場に応じて,自分で考え,進んで行動する力
- ・相手の思いを受けとめて,相手の立場に立って行動する力
- ・他人事ではなく,自分のことと重ねて考えて行動する力



～ 豊かな対話とは ～

- ・自分の考えや思いを相手に伝えるように表現できる。
- ・語彙が豊富で,時と場合に応じて使い方を考え,表現できる。
- ・子ども同士,教職員や地域の人との関わりを深め,自分の考え広げ深めることができる。

7. 研究領域

算数科

8. 具体的な取り組み

(1)授業づくりについて…今年度までに積み上げてきた「加太スタイル」をベースにして授業を行う。

《 加太スタイルとは 》

- ・個々の子どもに対する具体的な支援をする。…視覚支援やワークシートの工夫などをする。
- ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の設定をする。…学習に見通しをもてる「めあて」を設定し,「ふりかえり」として求めたい内容を明らかにして取り組ませる。
- ・「活動カード」の提示で見通しをもたせる。…授業の流れにそって「活動カード」を活用し,子どもたちが,自ら活動に取り組めるようにする。
- ・ねらいに即した学びの形態を活用する。(ペア・グループ・一斉)…目的に応じてペア学習やグループ学習を取り入れ,学びを深める。
- ・ICT 機器を活用する…子どもの思考を可視化し,それぞれの意見を比較・分類しながら学びを深める。
- ・学習リーダー (GL) の活用を進める。…低学年から段階的に学習リーダーを育成する。
学習リーダーの役割や学習の進め方を理解させるとともに,他の児童にも学習リーダーに協力する態度を育む。
＜学習リーダーの活用例＞
 - ・授業の初めに,活動の流れを伝える。
 - ・問題の答え合わせをする。
 - ・新出漢字の学習の司会をする。
 - ・学習を進行する。
- ・対話を深めるための「話し方」「聞き方」を定着させる。…「聞き方」「話し方」「対話」チェックシートを活用して,全職員で子どもたちの目指す姿を共有し,実践を重ねる。また,毎月,到達度を振り返る。

- ①研究授業を軸に日々,実践を重ねる。
 - ・算数科における視点児童を設定し,手だてが有効であったかどうかを考え合う。
 - ・事後検討について…参観の視点にそって意見交流し,子どもと指導者の「よさ」と「課題」を明確にする。何を学び,学んだことをどう生かすかを常に意識する。(研修の自分化)
- ・1・2学期中にそれぞれ1回ずつ互見授業週間を設定し,参観後,必ず教員間で授業について意見交換を行う。
- ②個々のスキルアップを図る。
 - ・関中学校区の公開授業に1回以上参加する。
 - ・意見箱を設置し,各教員の疑問をもとに定期的にOJTを行う。
- ③人権教育カリキュラムやふるさと学習指導計画の検討を行う。
 - ・人権教育アライメント事業の研究テーマをもとに,人権教育カリキュラムを設定し,年間通じて計画的に学習を進める。
 - ・人権サポートガイドブックを活用する。
 - ・ふるさと年間指導計画をもとに,地域の方々との対話を通じて,子どもたちが学ぶ喜びをもち,主体的に学習に取り組めるよう学習の内容を工夫する。



(2)子どもたちが言葉の習得を進めるための手立てについて

- ①手元に「言葉の宝箱」を持ち,様々な教科等で積極的な活用を促す。
- ②辞書を積極的に活用させる。
- ③学 Viva やたしかめプリント等の各種プリントを活用する。
- ④様々な教科等での対話の場面を充実させる。

(3)学級づくり・集団づくりについて

- ①個々の子どもをていねいにみつめる。…Q-U アンケートや仲間づくりアンケートを実施する。
教育相談を各学期に1回実施する。
- ②心にとめる子どもを中心にクラスや全校児童の変容を見る。
…各クラスで一人,心にとめる子どもを設定し,その子とクラスの児童や全校児童のかかわりを見つめる。その際,「周りの子のかかわり方を変える」という視点を大切にして,クラスや全校児童の変容を見る。
- ③日ごろから,子どもの姿を交流・相談する。…学年の枠を超えて子どもの様子を観察し,お互いに伝え合う。その内容を子どもに返していく。
課題が見つかったらすぐに相談をかけ,具体的な手立て・方向性を考え合い,指導を行う。
- ④保護者の思いをつかみ,連携をはかる。…生産体験学習や定例の家庭訪問等,保護者と顔を合わせる機会を利用して対話を充実させ,理解を進める。
連絡帳や電話,家庭訪問など,日々の連絡をこまめに行う。

(4)学力向上にかかわって

- ①各種調査の結果分析を生かす。…3つの取り組みのねらいと内容に結びつける。
あさかぜ → 月曜日 全校読書
火,水,木曜日 1年生…現在の学習内容の徹底
2年生…think think 及び漢字学習
3・5・6年生…国語短時間学習
金曜日 業前活動(なわとび,ソーラン)
チャレンジ → 自主学習の内容を充実させる。
はなまる → 現学年の国語と算数の内容を習熟させる。



- 月曜日と水曜日の放課後を活用して,月5回,年間40回程度実施する。
- ②家庭学習の定着を図る。…家庭学習の内容や取り組み方を学年に応じて4月当初に発信する。
自主学習を紹介し合うことで,子どもたちの学ぶ意欲を高める。
タブレット端末を活用するなどして,子どもたちの実生活と授業を結びつける。